

# 企業と高校生のミライをつなぐ



## Link Stude：地域密着型DXプラットフォーム

大分県の高校生定着と地域経済の活性化を目指す、  
新しい取り組みが始まります。

# なぜ今、この取り組みが必要なのか

大分県の高校生は、地元企業を知る機会が限られています。この社会との接点不足が、進路選択のミスマッチや早期離職の一因となっています。

## The Opportunity



インターンシップ等を通じた実体験が、キャリア意識の形成に直結します。



学生に自社の魅力を知ってもらう最適な機会となります。



# 「アナログなやり取り」が、大きな負担を生んでいます

## Teacher Overload



学校の先生が企業と直接アポイントを取る現状。

**1.5~2倍**

の企業に架電しないと決まらないのが実情です。

先生個々の負担が大きく、継続的な実施が困難。

## Generational Gap



Z世代はスマホ中心で情報収集します。紙の求人票や電話連絡では行動につながりません。

# その課題を解決するのが、Link Studeです

大分県の高校生を対象とした「インターンシップ」「職場見学」「バイターン」の3つのプログラムを通じ、地元企業と学生をつなぐ新しい取り組みです。



本事業の核心は、単なるDXではありません。  
「若者が働くことを前向きに捉える地域文化の育成」です。

2026年4月、まずは県内の私学を対象に実施予定。

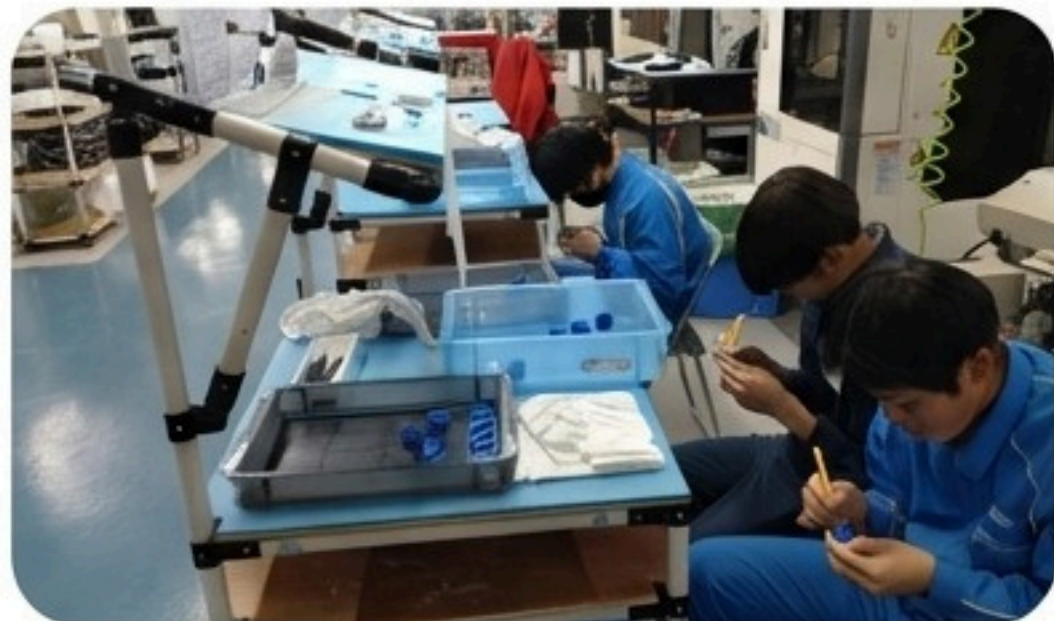
# 3つのプログラムで、企業と学生の多様な接点を創出



## ① インターンシップ

課外授業の延長・実地体験型

高校生が企業の実際の業務を体験し、  
将来のキャリアへの理解を深めます。



## ② 職場見学

企業訪問

会社の雰囲気や業務を直接伝える絶好の機会  
となります。



## ③ バイターン

就労型体験

「働くこと」「お金を稼ぐこと」の意味  
を学ぶプログラム。企業文化の理解促進  
と地域での知名度向上が期待できます。



# すべての関係者をつなぐ、ひとつの管理システム

企業・先生・生徒の情報をクラウド上で統合。これまでの煩雑なやり取りを大幅に削減します。



## 教員用：

生徒の基本情報から活動状況まで一元管理。  
進捗確認やレポート作成も効率化。



## 企業用：

募集案件の登録から生徒の活動  
報告確認まで、一つのプラット  
フォームで完結。

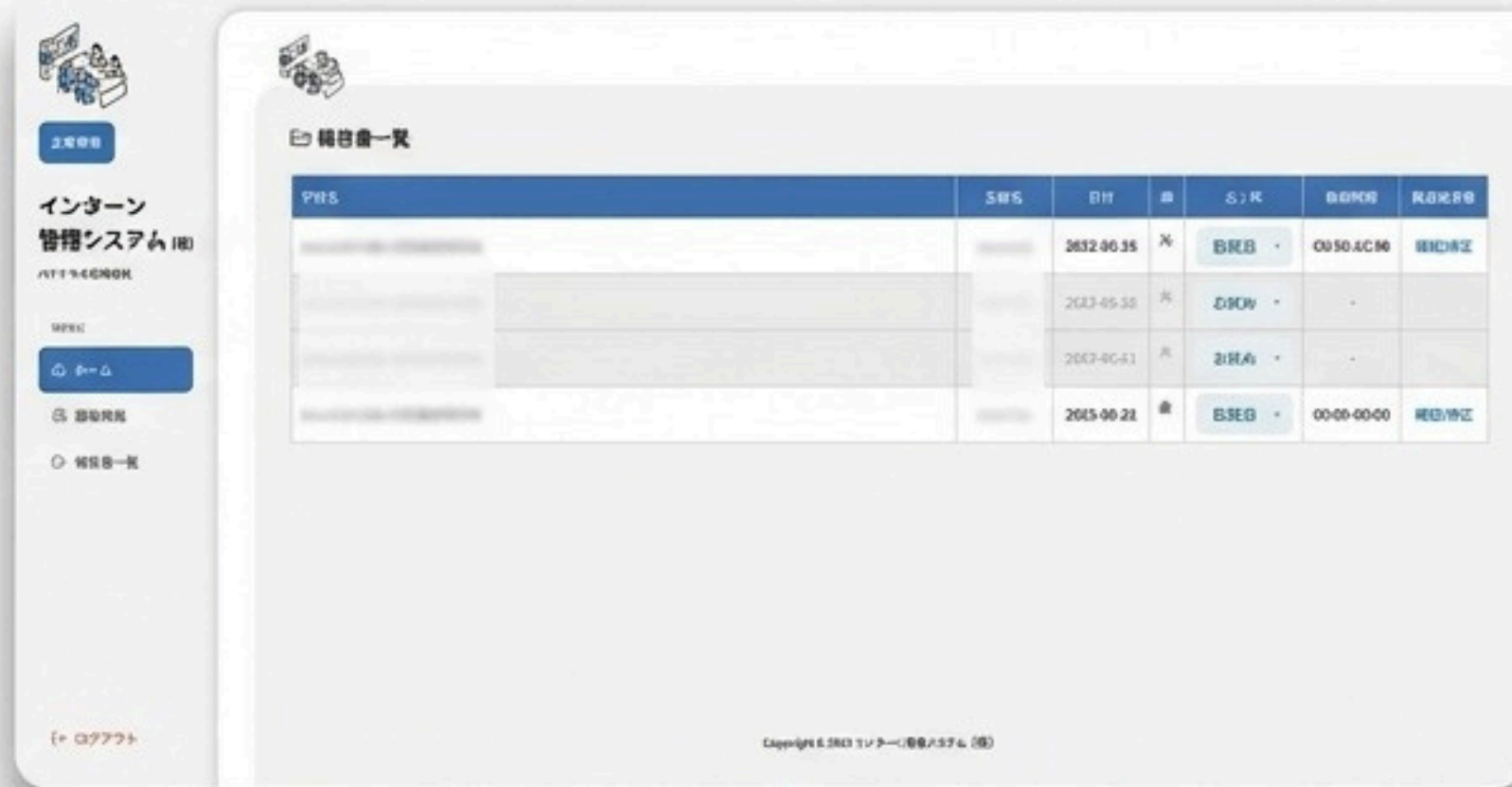


## 生徒用：

活動報告の入力・共有を通じて、  
自身の成長を可視化。企業との円滑  
なコミュニケーションをサポート。



# 直感的で使いやすい企業向け管理画面

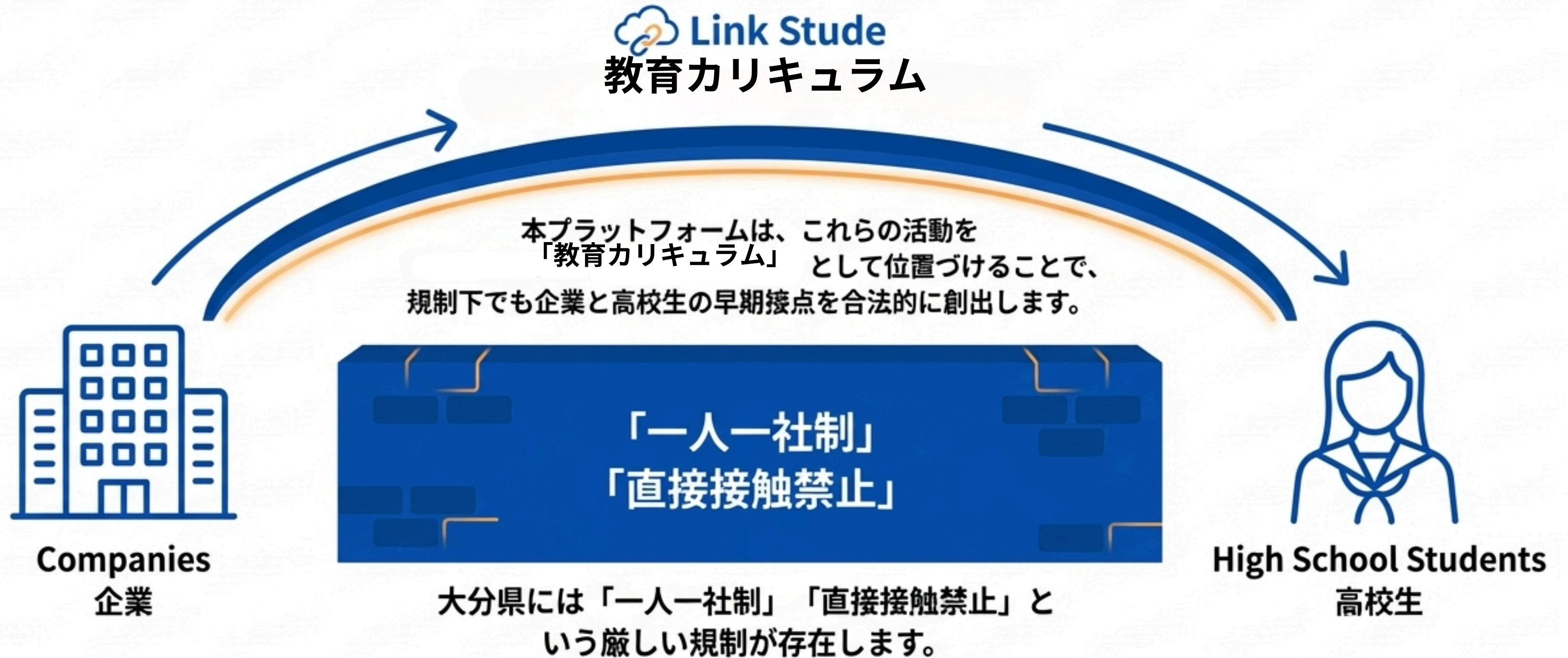


ログイン後、生徒の活動状況や報告書を  
一覧で確認できます。



生徒が提出した日々の活動報告を詳細に  
確認。指導や評価に役立てられます。

# ■ 独自の規制を乗り越える「リーガル・イノベーション」



これは、地域に根ざした私たちだからこそ実現できた、独自の解決策です。

# Link Studeがもたらす、企業様への導入メリット



## ブランド力向上

若年層への効果的なブランド訴求が可能になり、企業のネームバリューが向上。認知度UPと口コミ効果も期待できます。



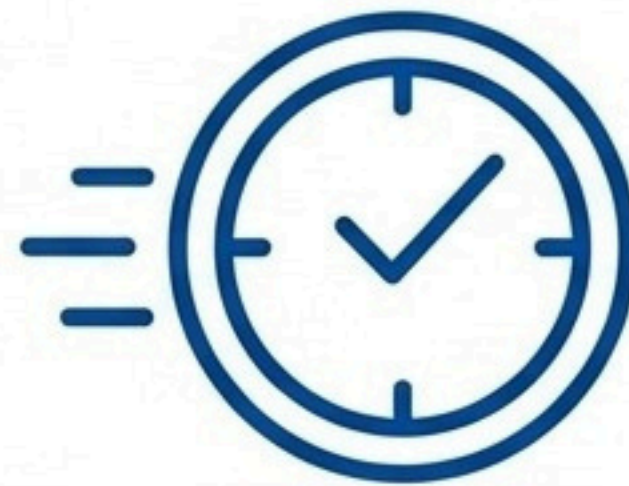
## 地域社会への貢献

学校や教育機関との強固な関係を築き、地域に根ざした企業として評価向上。CSR活動としても高く評価されます。



## 未来の人材確保

早期から学生との接点を持つことで、将来の採用候補となる人材を育成。採用ミスマッチを防ぎます。



## 業務効率化

プラットフォーム上で情報を一元管理し、学校との調整や連絡にかかる時間と手間を大幅に削減します。

# すでに実証済みの確かな効果

## Pilot Program Success



佐伯市の私立高校と連携し、すでにテスト導入を開始しています。



インターンシップ・バイターンをすでに実施済み。



Proven Success

“ “ 非常に良い

学校・企業双方から「非常に良い」との高評価を得ています。

この成功を元に、今後は県内全域への拡大を予定しています。

” ”

# メディアで取り上げられました

## 企業と生徒アプリでつなぐ

【佐伯】日本文理大付高（佐伯市）、バナナラボ（別府市）、メディア総研（大分市）の3者で立ち上げた高校生と地域産業をつなぐアプリ「リンクスチュード」の試験運用が19日、佐伯市の同校であった。来年度、本格運用する予定。

地元を知り、愛着を持ち、働ける地域づくりを目指す取り組み。アプリは生徒と地域の事業所とのアクセスを容易にし、職業体験など仕事の魅力を知る、伝える機会を増やす。甲斐優真さん（3年）が命名した。

この日はアルバイトとインターンシップを組み合わせた「バイターン」を試した。生徒18人が事前にアプリを使って同校と協定を結んだ佐伯市内の事業所に申請。担当者と面談した。

[YouTube]



## 佐伯・文理大付高で試験運用



アプリを使ってバイターンを申し込んだ事業所との面談をする生徒ら

企画した同校の立木穂太郎進路指導主任は「評価のフィードバック、調整の簡略化が期待できる」。管理運営するメディア総研の甲斐元啓社長は「地域で子どもたちを育てるイメージ。将来的に県内全ての企業と高校生がコミュニケーションを取れるようにできれば」と話した。

（安部亮）